

立憲民主

RIKKEN MINSHU

一人ひとりに寄り添える町田へ

町田市議会議員

ひがし ともみ

東友美

町田市議選へ向けて
立憲民主党
公認を決定!

東友美さんは、市民相談を継続的に行い、市民の皆さんの不安を伺い、解決策を考え、政策をつくり、議会や党へ提言を続け実績を重ねています。ボトムアップを実践している東友美さんを応援しています(伊藤俊輔衆議院議員)。

東友美さんを
応援しています!



●お問い合わせ

〒194-0021 町田市中町2-6-11-3F

立憲民主党東京都第23区総支部 東友美

電話:070-4812-8813 メール:info@higashi-tomomi.com

※基本的に、ご連絡はメールでお願いいたします。



まっすぐに不安と向き合っていきます

公認決定にあたり、東友美町田市議会議員は次のようにコメントしました。

「初めての市政挑戦から早くも4年、皆さまのお力添えのお陰で、無事にやりきることができました。本当にありがとうございました。

私は幼いころ、父が家のお金を持ち出し失踪、母からネグレクト(育児放棄)を受けるなど、困難を抱えて育ちました。外からの支援が必要だったにもかかわらず、問題を内側に隠し、家族だけで抱え込んでいました。暗闇を彷徨うような毎日だったことを、今も忘れていません。

私の子ども時代に抱えていた苦しみには、現代社会が抱えるキーワードがいくつもあります。貧困、借金、虐待、いじめ、孤立、非正規雇用、失踪、依存症、ギャンブル…。時代は進

んだのに、同じ苦しみを抱える子ども、家族が今もいます。

私は問題を家族で抱え外に相談できずにいた経験から、「小さな声に耳を傾けない政治に幸せな社会はつくれない」という信念を培い、市政に飛び込みました。

市議としての4年間では、子どもやLGBTsの相談窓口の充実、高齢者のデジタル利用支援、自殺・ハラスメントの防止、貧困・マイナリティ・人権政策などに力を入れて参りました。引き続き、「大丈夫だよ」と声をかけ、問題や苦しみ抱えるすべての市民のために、まっすぐに不安と向き合っていきます。

これからも、「一人ひとりに寄り添える町田」をめざし、活動していきます」



東友美 町田市議会議員 プロフィール

経歴 1984年:岩手県生まれ。5歳で山崎団地に引っ越し。
1990年:正和幼稚園(町田市)卒園。1996年:町田市立忠生第五小学校卒業。1999年:町田市立山崎中学校卒業。
2002年:東京都立忠生高等学校卒業。2007年:東京農業大学農学部卒業。2018年:町田市議会議員選挙で初当選。

役職 町田市議会健康福祉常任委員会副委員長。

民生委員推薦会委員。立憲民主党青年局役員。

東京若手議会議員の会副代表。

関東若手議員の会 性教育・不妊治療チーム座長。

座右の銘 「奇跡を待つより捨て身の努力」。

メディア スッキリ!(日テレ)、news23(TBS)、
グッとラック!(TBS)、毎日新聞、東京新聞、AERA、世界他。
出演テーマ:『LGBTsについて』『女性が議員を続けられる環境づくりについて』など。

著書 「子どもの虐待はなくせる! 安心して子育てができる社会」を考える(けやき出版・共著)。

性自認等 Xジェンダー、アロマンティック、アセクシャル。

趣味 一人旅、ベランダ菜園、多肉植物、
スキューーバイキング。

保有資格 図書館司書、学芸員、医療保険士、
アロマテラピー検定1級。



▲市議会では子どもの相談窓口、高齢者のデジタル利用支援、貧困、人権政策などを提案しました



▲ハラスメント防止や女性議員を増やすための環境整備を「グッとラック!」(TBS)に出演し訴えました



▲LGBTsの啓発活動のためnews23(TBS)に出演。「自分らしく生きられる社会づくり」の重要性を訴えました

東友美町田市議会議員の情報はこち



twitter



Facebook



Instagram



政策の詳細などはホームページへ

<https://higashi-tomomi.com>

東友美

検索





ひがし ともみ

東友美 1期4年
町田市議会議員主な
実績

一人ひとりに寄り添える町田へ

◆自殺対策、相談を大切にする町田に

町田市では例年自殺対策を行っていますが、コロナの影響を鑑みてさらに強化することを決めました。また、電話に慣れていない子どものため、オンラインで相談できる窓口の設置に取り組み下記を実現しました。

- ✓ 自殺やハラスメント対策に関する関係機関との連携強化
- ✓ 小中学校におけるスクールサイン(オンライン相談)の導入
- ✓ 自殺対策強化の前倒し

2022
政策

これからも引き続き取り組むこと

◆LGBTsに寄り添える町田に

これまで町田にはLGBTsに配慮する施策が全くなく、窓口での対応等へのクレームが寄せられていました。東は当事者としても集中的に取り組み下記を実現しました。

- ✓ 専門相談窓口の設置
- ✓ 市の職員への継続的な研修の実施



▲コロナ前は毎年「東京レインボーブラッド」に参加。蓮舫議員と一緒に☆



▲児童虐待施策への知見を深め、著書も出版いたしました。今後はその知見を市政に活かします



▲市内新規就農者より町田の農業の問題点や担当づくりについてお話を伺いました

◆子どもを性被害から守れる町田に

年々増加している子どもの性被害。犯罪者から子どもを守るには正しい知識を伝えることが重要です。人に身体を見られることを「恥ずかしい」と思う気持ちを守り、「自分のことを大切にする」力を伸ばすことが子どもの自衛力を高めます。

また、正しい性教育の実施、二度性徴時の心の不安から子どもを守ることも大切です。その観点から取り組み下記を実現しました。

- ✓ 小学生の体育着の下へ肌着用が全校全学年で可能に
- ✓ 小学校低学年からの男女別更衣の促進
- ✓ 学校トイレへの生理用品の設置

▶性教育の学習素材。
画像協力:
性教育サイト「命育」



◆デジタルが苦手な方を取り残さない町田に

進むデジタル化の中で取り残されている方がいます。

例えば、ご高齢の方が新型コロナウイルスワクチンを予約する際「インターネット予約がうまくできない」というケースが多くみられました。

そのような中で「できない人がいるから〇〇のデジタル化は止めよう」という空気が生まれている風潮もあります。しかし、デジタルはあらゆる活動にとって非常に便利なものです。

誰もがデジタルを活用でき、便利さを享受するために下記を実現しました。

- ✓ 無料のデジタル利用支援の実施
- ✓ 図書館へのWi-Fi導入
- ✓ オンラインセンター養成の実施
- ✓ タブレット端末貸出事業



◆みどりを大切にする町田に

「2022年に都市にある農地のほとんどが一斉に宅地化されるのではないか」と懸念されていた『生産緑地2022年問題』。農地保全のため集中的に取り組みました。

- ✓ 2022年の生産緑地(特定生産緑地)の維持率92.7%



★命を守れる町田に

町田には三次救急の病院がありません。医療状況を改善するために三次救急病院を誘致する他、障がいのある方も安心して医療を受けられる町田をめざします。

- ・三次救急病院の誘致
- ・障がい者を診られる医療施設の充実

★多様性を認め合える町田に

少数派である、それだけで差別を受け苦しんでいる方がいます。誰もが自分らしく幸せに生きることのできる町田をめざします。

- ・パートナー(ファミリー)シップ制度の創設
- ・障がい者の居場所/就労場所の充実
- ・LGBTsへの支援拡充/差別防止
- ・女性をはじめとした多様な人材が議員を続けやすい環境づくり



▲街頭でも政策を訴えています。見かけましたらお声かけください



▲乳児院を視察。現場でお話を伺い市政に活かしていきます

★子どもを守れる町田に

町田には児童相談所がなく、八王子にある児童相談所が対応している状況です。町田独自の児童相談所の設立を目指します。また、なかなか声に出せない悩みを抱えた子どもを守れる町田をめざします。

- ・町田独自の児童相談所設立
- ・小中学校のいじめ対策/相談体制の充実
- ・自分の身を守るために適切な性教育の実施

★一人ひとりに寄り添える町田に

本当に助けが必要な人ほど声を上げづらいとう現実があります。小さな声に耳を傾け、寄り添える町田をめざします。

- ・自殺予防対策拡充
- ・貧困対策拡充
- ・相談窓口の充実/周知
- ・ひとり親家庭への支援拡充

▼食物の地産地消も進めます。
町田産の美味しい大根

★みどりを守れる町田に

市街地に空家や空地があるにも関わらず、新たに自然を破壊し家を建てていく、そのサイクルはどこかで変えなければなりません。市の計画を実施する時もみどりや生態系の破壊を最小限にする町田を目指します。

- ・(仮称)国際工芸美術館整備事業の見直し
- ・空家や農地のマッチング事業促進
- ・自然や生態系保護団体との連携促進
- ・食物やエネルギーの地産地消促進